

Thinking
Living
Praying

本当の自分と
出会うための学び。

自由学園 最高学部




JIYU GAKUEN
COLLEGE
2026

自分らしく生きたい。
でも、「自分らしさ」って、どうしたら見えてくるんだろう。

将来のことに向き合いながら、今を一生懸命に生きている。
大学や就職は大切な通過点。
でも、その先にどんな人生を歩んでいきたい？

「自分は、どう生きたいんだろう。」
「どんな未来をつくりたいんだろう。」

自分を深く見つめることは、
社会を見つめることでもあるんだ。
そして、自分と向き合う時間は、
未来へ向かう確かな“土台”となる。

この場所が、自由学園最高学部が、
社会へ踏み出すはじめの一步になる。

*Thinking
Living
Praying*

Thinking Living Prayingは、自由学園のモットーである「思想しつつ、生活しつつ、祈りつつ」を表しています。

本当の自分と
出会うための学び。



What is Liberal Arts?



第1章 最高学部のリベラルアーツとは？



あなたは、今自分が自由であると感じていますか。
 それとも何らかの不自由や束縛を感じているでしょうか。
 また世界にはどのような自由、どのような不自由が広がっているでしょうか。
 自分の頭で自由に考え、行動し、自分らしく生きること。
 そして誰もが平和で民主的な世界で暮らすこと。
 そのために私たちは、いったいどんなことを学び、
 そしてどのようなことを身につける必要があるのでしょうか。

自由学園最高学部のリベラルアーツ教育は、キリスト教を土台として、
 知識と実践を通じ、どのような専門性を身につけるとしても必要となる
 自由で幅広いものの見方、自分らしく人生を切り拓く力、
 そしてよい社会をつくるための力を養います。
 リベラルアーツ (*Liberal Arts*) は、「自由に考え、よりよく生きるための学び」です。

自由学園最高学部のキャンパスは、4000本の樹々と共にある暮らしと学びのフィールド。リベラルアーツに根ざした未来を拓く学びを糧に、ここから社会へ羽ばたいていく。

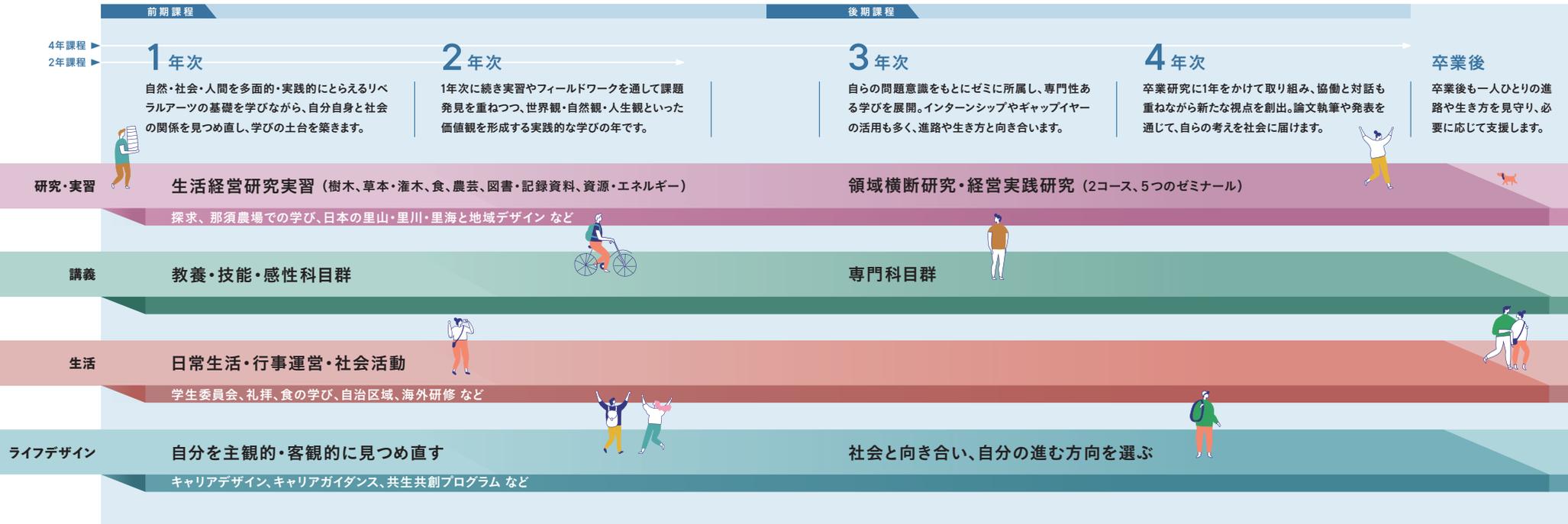


Liberal Arts Curriculum

リベラルアーツ・カリキュラム(4年間の学びの流れ)

学びの「4つの柱」

自由学園最高学部のリベラルアーツ・カリキュラムは、総合的に様々な学問分野の基礎を学ぶ前期課程(1~2年次)と専門性を深めていく後期課程(3~4年次)に分かれています。それぞれ「研究・実習」「講義」「生活」「ライフデザイン」の4本の柱からなります。



真の人間教育をめざして

自由学園最高学部(大学部)は1949年、受験教育と学歴社会のあり方に異を唱え、キリスト教を土台とした真の人間教育の実現をめざして、各種学校として誕生しました。以来76年、独自の教育機関として歩んできました。



「研究・実習」カリキュラムの中心には、1・2年次には「生活経営研究実習」が、3・4年次には「領域横断研究」「経営実践研究」が置かれ、研究的に課題に取り組む力を磨きます。

「講義」カリキュラムにおいては文系・理系の枠組みを超えて、さまざまな学問分野の基礎を学びます。芸術性や身体性(音楽・美術・体操)を豊かに磨くことにも力を入れています。

「生活」カリキュラムは、生活実践と学問との有機的な結びつきを重視する最高学部の特長をよくあらわすものです。学校という身近な共同体の運営から、地域や社会への働きかけ、

さらには海外を拠点とする取り組みへと活動範囲は広がります。異なる考えや文化にふれ、他者と協働する実践的な経験は、様々な違いを乗り越えてよりよい世界を創り出すための実践力を養います。

これらを通じて、社会や世界、歴史、また自然を観る目を養い、その土台の上に、「自分はどう生きていきたいのか」という人生の指針となる価値判断の軸を、じっくり形作っていきます。このような意味で最高学部の学びと生活のすべてが、「よりよき生き方」を目指す「ライフデザイン」の学びと言えます。



人との関わりが、自分をつくる。



先輩インタビュー I

出会いが学びに、 学びが人生につながる

尾辻 嶺さん

【最高学部2年・神奈川県鎌倉市出身】

自分で発案した
デザインの門松



尾辻さんのノート
とてもわかりやすい!

■この1年で自分はどう変わりましたか?

高等部のころはあまりメモを取らなかった僕ですが、学部の学びを受けるようになったおかげで、毎回の講義でメモをたくさん走り書きするようになりました。とにかく勉強すること、学ぶことが楽しくて止まりません!

■芸術にも興味がでてきたそうですね?

美術を学びたければ芸大に進学したり、それに特化した分野に進むことになります。でも学部の美術は自由に学ぶことができます。リベラルアーツを学べて、また美術を同時に学べるということが本当にすごいことだと思います。美術は『陶芸』『染織』『絵画』の3つで、僕は『絵画』を選びました。学期の終わりには講評や見合う時間もあり、それぞれが違う視点から美術の面白さを伝えてくれます。それがよさであると思います。学部の美術は単なる一教科ではなく、私たちの生活と結びついているんだなと感じています。

■ポーランドへの研修旅行はどうでしたか?

僕の中で国際的なつながり、関係を持ちた

いというはずいぶん前からありました。僕は人と関わることがとても好きで、会話や関わりを通して自分の人格がつけられているような気がしています。

僕は1年生の時にポーランド研修制度に参加しました。1年生は唯一ひとり、他は全員上級生でした。同級生がいなく少し怖い気持ちでしたが、この機会を通して、周りの目を気にせずになんでも挑戦してみることが大切だと思わされました。国を越えて繋がり、言語の壁を越えてのコミュニケーションをすることは素晴らしいことだなと思います。また、普段話さない上級生とも話すようになり、海外の研修旅行と上級生とのコミュニケーションどちらも充実させることができよかったですと思っています。

■最高学部の感想をお願いします!

最高学部だからこそ学べるものがたくさんあります。一つの学問にとらわれず、幅広い選択をすることができるので、学びを通じて、僕が将来どのようにありたいのか、どのような人生を歩んでいきたいのかを考えるきっかけに、自然とつながっていくんだなと日々感じています。

Research And Field Work Curriculum

1, 生活経営研究実習

私たちの暮らす社会には、エネルギーや環境の問題、食や農業の課題、情報管理の重要性など、さまざまな問題があります。それらをただ机上で学ぶのではなく、足元の問題に実際に取り組みつつ解決策を探るのが1・2年次の必修科目「生活経営研究実習」です。



樹木



農芸



草本・灌木



図書・記録資料



食



資源・エネルギー

テーマごとに6つのグループ『樹木』、『草本・灌木』、『食』、『農芸』、『図書・記録資料』、『資源・エネルギー』に分かれ、座学を通じてそれぞれの専門知識を学ぶと共に、実際の課題発見・課題解決を通して実践力を養います。

『樹木』、『草本・灌木』では、植物や樹木の観察、手入れを通じて人と自然の関係を学び、その土地にふさわしい自然環境をデザインします。一見自然豊かな校内ですが、中には保護すべき絶滅危惧種の植物もあります。これらに気を配り管理しているのもこのグループです。『食』のグループは、学園内の「食」の学びを支え、また学内の収穫物を活用したレシピも考

案。安心・安全な食のあり方を探求しています。農業と園芸からなる『農芸』では野菜と花を育て、食と生産、生活のつながりを体験します。巨大企業によるタネの独占が問題になっていますが、新天地では自家採種にも取り組みタネから花を育てています。『図書・記録資料』では、図書及び学内の歴史的記録資料の管理技術を学び、史料の扱い方、活かし方を研究します。現在は、戦時下の「食事作りの記録」の研究を行っている学生もいます。『資源・エネルギー』では、学校という小さな社会を舞台に資源の活用や設備の修理、また災害時の電源確保に備える取り組みもしています。

Research And Field Work Curriculum

2, 地域・社会から世界へ

リベラルアーツ教育は一般的に幅広い知識を学び、「自分の頭で考える力」を養うことを重視しますが、最高学部のリベラルアーツ教育は活動範囲を地域から世界へと広げ、知識と実践をつなぎ、「自分の頭で考える力、そして行動する力」を養うところに一つの特長があります。

研究・実習カリキュラム



東久留米市環境フェスティバル



能登半島震災支援活動

/// 地域・社会に広がる学びとは？

自由学園最高学部では、東久留米市や周辺地域と連携しながら、自然環境の保護や社会課題の解決に取り組んでいます。

学園を地域の方々に開き、キャンパスの野生植物を学生が紹介する自然観察会は30年以上続くもので、地域との信頼関係を築く機会にもなっています。また毎年「環境月間」の6月に開催される東久留米市環境フェスティバルには2003年から出展。近年は、最高学部生がポスター・チラシのデザインを担当しています。

立野川の水源地でもある向山緑地では学生による自然誌的調査が継続され、東久留米市の「向山緑地若返り事業」においても市民グ

ループと協働し、研究活動を行ってきました。

最高学部の学生は東久留米キャンパス以外の3か所の自由学園フィールドでも研究活動を行っています。栃木県那須塩原市的那須農場の圃場では2022年度から、不耕起栽培による環境再生型有機農業に取り組んでいます。

また那須農場及び埼玉県飯能市の名栗植林地、三重県紀北町海山植林地のそれぞれで、「水文・気象観測室」の学生が気象観測や河川調査を行っています。

災害復興支援にも力を入れており、東日本大震災の復興支援では50回を超えて現地での活動。現在は能登半島地震の被災地で学生がボランティア活動を行っています。



ネパールでは地域社会との深い交流を築いてきた

/// 国際交流プログラムとは？

「世界とつながる教育」を目指し、最高学部では海外大学・ホイスコーレとの提携や留学生・ティーチングアシスタントの受け入れなどを推進しています。

ポーランド研修・交換留学では、ポメラニアン大学との提携を活かし現地での交流を行い、アウシュビッツやワルシャワなどを訪れ、歴史・文化を学ぶ機会を得ています。2023年度には、学部生1名がEUの教育交流プログラム「エラスムス+」の奨学金で半年留学しました。

またデンマークでは、2016年度にオレロップ体育アカデミーによる半年間の授業料滞在費給付の自由学園奨学金制度が設立され、以来多くの学生が学びの幅を広げています。

さらに、ネパールでは、現地の人々と協力して30年にわたり植林活動を行い、地域社会との深い交流を築いてきました。2025年度よりアジア協会との連携のもと新たなプログラムが始まります。

これらのプログラムは、世界に目を向け、異文化理解を深めながら成長できる貴重な機会になっています。



ポーランド研修・交換留学



今大好きなあなたとハグしたい。



先輩インタビュー II

今を全力で生きる!

ギャップイヤー制度体験者

高田 和実さん

【最高学部4年・東京都西東京市出身】



10mの
飛び込み台から!



「今を生きたい」そう思って学部進学を決めました。将来のための手段としてではなく、今この時をどう過ごすかに一生懸命でありたいと思ったとき最高学部は私にとって最適な環境でした。そしてこの4年間、自分と向き合い、本当にしたいと思った挑戦を重ねることができました。

中でも3年次に最高学部のギャップイヤー制度・学外研修制度を利用して行ったデンマークのオレロップ体育アカデミーでの一年間の留学生活は、行って良かったと心から言える大冒険でした。

そこは人間教育を理念とする体育学校で世界約20か国の人々が授業を受け生活を共にするのですが、初めは目の前の全てに圧倒され孤独感を感じたり焦ったり、「できない自分」を責めました。苦しかった最中の先生との個人面談、泣きながら話した本音をじっと聞いていた先生が「ハグが必要かい?」と言ってハグしてくれました。これが、私がハグの良さを知って

いく始まりでした。

また、上手い下手ではなく互いの挑戦を称え合う文化がありました。パワータンブリングの授業では勇気を持って挑戦すると世界大会に出場するような人たちが声を上げて喜んでくれました。

他にも10mの飛び込み台からプールに飛び込んだり、全校に向けて作詞作曲の歌を披露したり、私は挑戦が大好きになりました。多くの人から助けをもらい、愛に触れながら日々を過ごすうちに、弱いところも多くある人間らしい自分を少しずつ好きになっていくことができました。

帰ってきた今、最高学部最後の一年、ゼミや友達との時間、転回運動部、アルバイト。ここにも感謝でいっぱいの日々があります。アルバイトでは体操教室で子どもたちに体操を教えています。子どもの「やりたい」の実現を手伝う、そんな人でありたいです。

今と一生懸命向き合う。今を楽しむ。そんな風に、私はこれからも今を全力で生きます。

Research And Field Work Curriculum

3, 領域横断研究・経営実践研究

後期課程の3・4年次には各自の問題意識に応じて、「領域横断研究コース」(フィールドサイエンス、ヒューマンサイエンス、データサイエンス、ライフスタイル)と「経営実践研究コース」(マネジメント)の2コース5つのゼミナールのいずれかを選択し、専門性を深め研究を行い、論文作成に取り組みます。



フィールド調査

フィールドサイエンス

環境・経済・社会などのフィールドを対象にして、地域と学園内の実践を往復し、SDGsの視野を持って学びを深めます。



戦跡地への訪問

ヒューマンサイエンス

平和・開発・人権・文化・教育のつながりを学び、世界と日本の現状を知るとともに、必要な多角的視点を実践を通じて探ります。



地方での研修

マネジメント

起業家やNPO経営者などの育成を目的に、学外研修(フィールド・メソッド)と事例研究(ケース・メソッド)で学びます。



3Dデータの作成

データサイエンス

身近な事象を分析し知を築くとともに、数理モデルやデジタルアークタイプ、表現のデザインにも取り組みます。



異文化の体験

ライフスタイル

創立者の理念を軸に、持続可能な社会と生活の課題を見つめ、望ましいライフスタイルを描き具体化します。

もっと

「領域横断研究」「経営実践研究」
について知りたい方へ



こちらのQRコードから、「自由学園
最高学部後期課程・ゼミナールの
紹介」冊子をご覧ください。



先輩インタビュー III

学びをもっと深めたい!

山田 周太郎 さん

【最高学部4年・大阪府大阪市出身】



学会で研究者の質問に答える

高等部の探求の授業でリジェネラティブ・オーガニック (RO) 農法について調べていたとき、「これ、本当にできるのか?」と疑問を抱き興味を持ちました。でも、本やネットで調べるだけじゃ分からないことも多く、「自分でやってみよう」という気持ちが強くなっていきました。

ちょうどその頃、一緒に探求をやっていた同級生と「だったら最高学部で自主グループとして取り組もう」という話になりました。自由学園には南沢キャンパス以外にもキャンパスがあるのに、あまり使われていないのはもったいないと思っていたこともあり、先生たちに相談したら、なんと那須農場で実際にRO農法を使った栽培をスタートできることに!

やってみると、やっぱり現場はおもしろい!土や根について本では分からなかった発見がたくさんありました。研究者やプロの農家さんから直接アドバイスをもらえる機会もあって、「リア

ルな学びができるってこういうことか!」と感じました。

さらに、地域・里山を知る講義やフィールドサイエンスゼミで鍛えられ、研究発表をしつつ、学外での関連イベントにも参加し、日本有機農業学会では発表も。学外の様々な人と意見交換する中で、「農業についてもっと学びたい」というワクワクが広がっていきました。

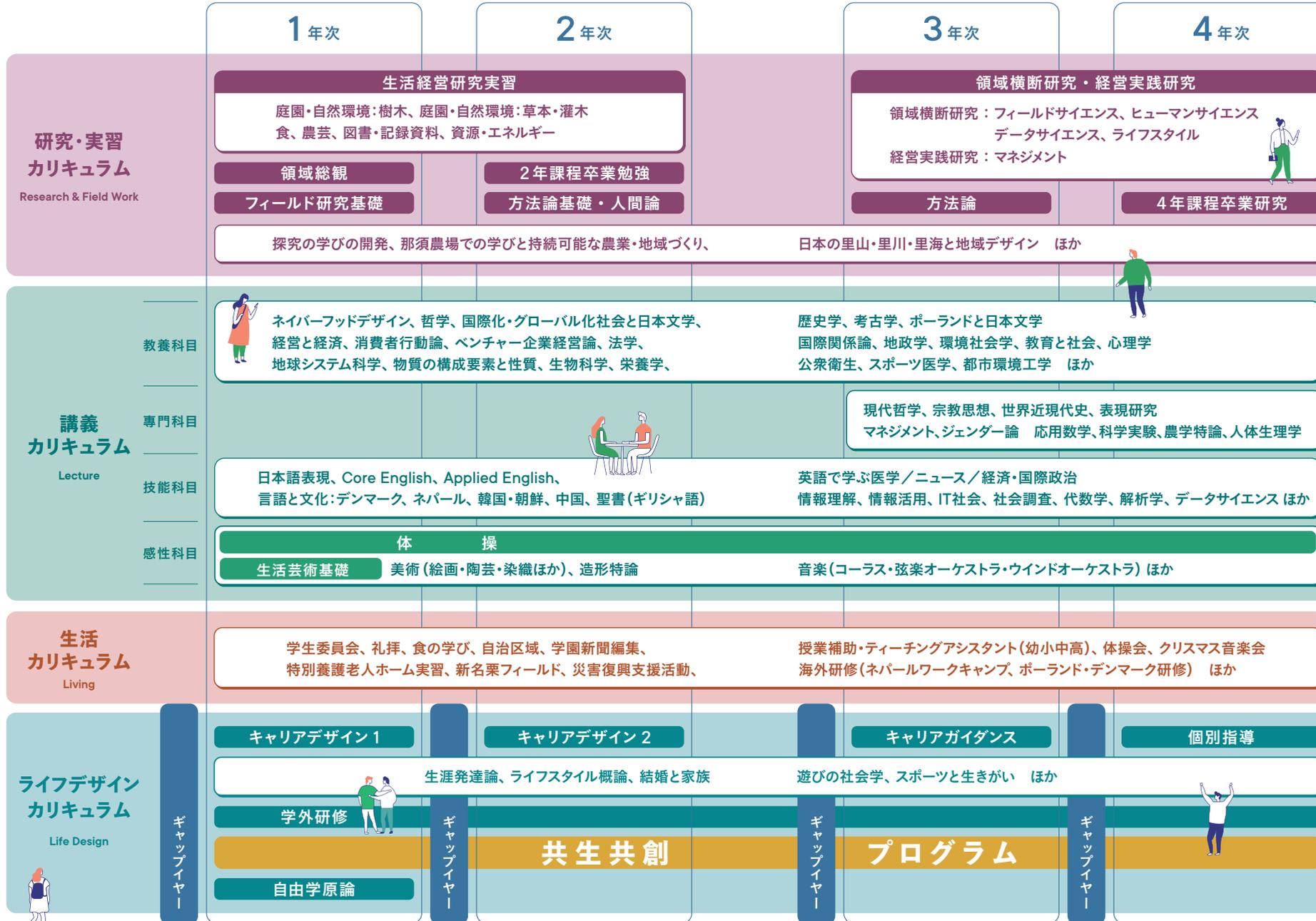
高等部の時から最高学部の先生たちに相談できたのは、すごく心強かったです。またリベラルアーツの学びだったからこそ、多様な知識や視点をもった仲間と学べ、慣習にとらわれず新たな手法にも挑戦できたことで、自分の学びをさらに深めることができました。

専門的な講義が少ない分、自ら必要な知識を学びにいく姿勢が身につく、自分でも成長を感じられるようになりました。現在は他大学で聴講もしており、学部卒業後は大学院でさらに研究を進めたいと考えています。



写真中央が山田さん

Curriculum カリキュラム全体図



ギャップイヤー制度について

最高学部のギャップイヤー制度は、修学・就労・旅など自由な活動に在学中のいつでも1年間取り組むことができる制度です。入学前または在学中に、家庭や学園を離れて自立的に経験を重ねることで、その後の学びをより深めることを目的としています。制度利用者には学費の減免が適応されます。

Co-Creating a More Beautiful World



第2章 リベラルアーツと共生共創の融合



2025年度から学外研修制度の1つとして始まる「共生共創プログラム」は、実社会と関わりながら学ぶ実践型の最長半年間のプログラムです。全国各地の連携拠点で、よりよい社会づくりに取り組む方々と共に学び、自らの学びを主体的にデザインします。

現代社会の課題に向き合い、「自分ならどうするか？」を考え、実践する経験が得られるのが大きな魅力です。加えて、事前・事後の講義や実習、フォーラムなどを通じて、俯瞰的・学問的視点からも理解を深め、自身の問題意識の深化へとつなげます。これらの活動はその内容に基づいて単位として認定されます。このプログラムは、創立者・羽仁吉一先生の掲げた「社会即大学」の理念を体現した、最高学部ならではの自由度の高いユニークな取り組みです。自分の可能性を広げ、社会に貢献できる力を育む機会として、ぜひ活用してください。



湯沢町のレストランgaiaさん。管理しきれなくなったこの地域の山を整備する代わりに、切った木材をもらってストーブや入り口などの装飾に使っているそうです。

Thinking
Living
Praying



雪のまちで、「暮らし」に出会う



馬を雪の中で遊ばんだ!



先輩インタビュー IV

湯沢町で学んだ、人と自然のつながり

伊藤 碧菜さん

【最高学部4年・千葉県松戸市出身】



祖母の家が新潟県の佐渡島にあり、海と山と田んぼのある景色が大好きでした。学部でも庭園管理や農業について学ぶ中で、私が真剣に地方について考えようと思ったのは学部二年の夏休み。祖母の家を取り壊すことになった話を、偶然聞いてしまったのがきっかけです。

「地域について学ぶならば、東京に籠ってではだめだ!」まちづくりの本を読みながらそう思い立ち、三年次の夏と冬に新潟県の三つのまちに訪れました。特に冬の湯沢町では『おためし地域おこし協力隊』として二週間滞在し、地域とより深く関わることに。関東での生活と新潟での生活の違いを目の当たりにしました。中でも一番の大きな違いは、暮らしの中に自然があること、一人一人が地域に対する志を持っていること、そして、それらに挑戦できる場があることだと思います。

地方で暮らしていると、山菜を取ったり、狩猟をしたり、畑、田んぼ、畜産をしたり、収穫物を加工したり…と、東京では経験できないようなことが「ちょっとやってみよう」で行われて

いました。平然と薪ストーブがあったりする。老若男女、そして古今を問わず、自然は当たり前前に存在し、利用され続け、生活を豊かにするものなのです。

「暑いから夏じゃなくて、海が綺麗になったから夏。寒いから冬じゃなくて、雪が積もったから冬。」と仰っていた方がいました。ビルの中では味わえない、なんとも美しい四季の感じ方ではないでしょうか。

地域を良くしようという志を持った人にも沢山出会いました。曰く、地方は都会に比べて不便なことや足りないことが多いが、それはチャンスでもあると。お店や施設一つを取ってもオーナーの「まちの暮らしを良くするため」という意志が込められているのを感じました。地方はまだ終わっていません。

暮らす場所が変わるということは、生活が変わるということ。変えられるということ。暮らし方も、考え方も、まるっきり違います。自分の知らない世界や生き方を知って、人生はより豊かになる。自由になる、と実感しています。

Co-Creating a More

共生共創プログラム 研修拠点 ①

Beautiful World

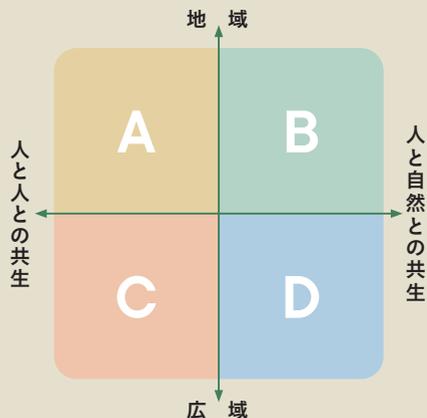
★印はリレー講義のみの研修先です。



わたしたちの心が知っている
もつとうつくしい世界は実現できる。

(チャールズ・アイゼンシュテイン)

「共生共創プログラム」は、社会とつながりながら学びを深める実践型プログラムです。全国各地の研修拠点で、環境、地域創生、福祉、農業、ビジネスなど多様な分野の実践者と共に学び、共に創る体験を通して、未来を切り拓く力を育みます。



立屋／真木共働学舎

共に生きる社会へ (長野県小谷村)
どんな能力の人間でも大切な命を尊重し合い、生きる事の根源的な意味を問いつつ、大地に根ざし、お米や野菜、動物を育てて、命を感謝していただく。それが、共働学舎での暮らしです。 A

きら星

地域資源を活かした実践 (新潟県湯沢町)
年間400万人が訪れる雪国・湯沢町を拠点に、地域課題や資源を活かし、学生の「やりたい」を実践につなげる場を提供。移住希望者向けのシェアハウスに無料滞在も可能です。 A

飯尾醸造

田んぼからお酢づくり (京都府宮津市)
京都の北部、宮津にあります小さなお酢屋です。小さいからこそ、他社が絶対にマネできない製法を守りつつ、新しいことにも取り組んでいます。 B

速水林業

持続可能な森づくり (三重県紀北町) ★
すべての生命あるものに豊かさを与える森林づくりをめざします。森の中で足元にいる微生物の感覚、山鳥のさえずり、イノシシの足跡、木それぞれが語りかけてくる声を聞いてください。 B



AMAホールディングス

地域創成 (島根県海士町)
行政と民間、島内と島外、都市と地域など、あらゆる境界を越えて、島内外にある豊かな関係資本を活用しながら、より魅力的で持続可能な海士町の実現に貢献します。 A

CNC (コミュニティナースカンパニー)

地域ネットワーク (島根県雲南市・全国)
「人とつながり、まちを元気にする」暮らしの身近なところで元気なうちから、「毎日の嬉しいや楽しい」を一緒につくり、心身そして社会的な健康やウェルビーイングに寄与します。 C

01 事前

方法論基礎・人間論
フィールド研究基礎
ネイバーフッドデザイン
キャリアデザイン
共生共創フォーラム

02 課題発見

探求の学び
生活経営研究実習
領域横断研究
経営実践研究

03 体験

【共生共創プログラム】

04 振り返り

レポート作成
事後アンケート
報告会

共生共創プログラム 研修拠点 ②

ピッコラーレ

孤立した妊婦のために (東京都)
「にんしん」をきっかけに、誰もが孤立することなく、自由に幸せに生きることができる社会の実現を目指して活動をしています。



日本ブラインドサッカー協会

障がい者スポーツ (東京都)
ブラインドサッカーを通じて視覚障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会、障がいの有無にかかわらず生きがいを持って生きることのできる社会を実現したいと思います。



UPDATER・みんな電力

電気をつなぐ (東京都)
コンセントの向こう側にいる再生可能エネルギー電力の生産者を見る化し、電気を選択する楽しさやワクワクを生み出すことで、気候変動の解決に取り組みます。



エシカル協会

暮らしの見直し (東京都) ★
「人や地球環境、社会、地域におもいやりのある考え方や行動」を広げることによって、エシカルな暮らし方が幸せのものさしとなっている持続可能な世界の実現を目指します。



大地×暮らし研究所

大地再生農業 (北海道夕張郡)
大地再生農業を目指す、北海道の「メノビレッジ長沼」を拠点にリジェネラティブ(大地再生)な世界観をどう暮らしに、農に取り込んでいくかを探り求めています。



学外研修制度

卒業後の進路を具体的に考える上で役立つ機会をつくるために、学外で自主的に学ぶ制度です。海外留学、国内研修、インターンシップまた共生共創プログラムなどに、最大半年を充てる事が出来ます。研修の内容に基づいて単位を認定します。



八戸クリニック街かどミュージアム

地域文化を次につなぐ (青森県八戸市)
羽仁もと子の出身地である八戸市の歴史や文化を学びながら、地域コミュニティの深化を図ります。また、八戸友会の会員との世代間交流を通して、地域文化の継承にも取り組みます。



専業／新得共働学舎

共に生きる社会へ (北海道小平町/新得町)
心や体に不自由を抱える人達と共同生活をしています。専業では、養豚を中心にソーセージやベーコンを生産。新得では、放牧酪農を行いナチュラルチーズを作っています。



フィールドプロ

人と自然の共生を目指して (東京都) ★
気候変動・頻発する地震による影響が顕著に表れるようになる中で、気象・地震観測のデータを蓄積することによって、様々な環境問題や社会問題の解決に貢献することを目指します。



パタゴニア

RO農業 (千葉県匝瑳市)
「故郷である地球を救うためにビジネスを営む」という企業理念のひとつの解として「リジェネラティブ・オーガニック農業」に取り組んでいます。千葉県匝瑳市で事例づくりに挑戦中。



フリースペースたまりば

子どもの居場所 (神奈川県川崎市)
学校や家庭・地域の中に自分の「居場所」を見いだせない子どもたちが集う「学校外の育ちと学びの場」。自己肯定感や自尊感情を育むことが、大切であると考えています。



奈良山園

循環型の都市近郊農業へ (東久留米市)
都市の資源を活用した堆肥や果樹園の受粉を助ける養蜂など地域循環型の農業を通じ、農産物の生産・加工・販売から農の体験までを手掛け「農ある豊かな暮らし」の実現を目指します。



ARUN Seed

ソーシャルビジネス支援 (東京都)
すべての人が才能を発揮できる社会を実現するために、世界で課題解決に取り組む起業家と私たちをつなぐ、新しい社会的投資プラットフォームの構築を目指しています。



HITOTOWA

ネイバーフッドデザイン (東京都)
人と和のために仕事をし、「ともに助け合えるまちをつくる、人が幸せな会社」をビジョンに掲げています。いざというときに助け合える関係性、多世代が学び合う場を創ります。



Designing Your Own Life.



第3章 最高学部のライフデザイン



未知の学問分野にふれて、世界の見方を広げること。
友と共に学び、共に食卓を囲み、深く語り合うこと。
友と力を合わせて足元の課題に向き合い、共に働き汗を流すこと。
芸術的な作品の創造に没頭すること。体を動かすことの喜びを感じること。
地域や社会の課題に向き合い、よいと思ったことを共に形にすること。
海外での生活を通じ友人をつくり視野を広げること。
問題にぶつかって悩むこと。
志をもって生きる大人に触れて刺激を受けること。
自分の頭で考え、更に一步を踏み出してみること。
知らなかった世界と出会うことは、知らなかった自分自身に出会うこと。

最高学部では、このような経験の上に、
真にゆたかな人生をデザインする力が養われると考えています。



「やってみた」経験の中に、
自分らしい未来が見つかる。
最高学部の卒業生は、
社会から高く評価されています。



卒業生を招いての保護者会主催のイベント

キャリア支援室から

“やってみた”が、
自信に変わる!

高木 麗 キャリア支援室長

【キャリアデザイン、キャリアガイダンス担当】



下級生を導いた山登り遠足。
教師からの厳しい言葉で、責任の重さと自由学園の教育の本質に気づいた—高木さんにとって、忘れられない学びの原点。

自由学園最高学部で学ぶ人は、「やりたいこと」だけでなく「やりたくないこと」や「やらねばならないこと」に挑戦することにも価値を見出せると思います。

スタンフォード大学クランボルト教授の「計画的偶発性理論」によると、成功したビジネスパーソンのうち18歳時点で考えていた職業に就いた人はわずか2%。変化の激しい現代では、やりたいことだけで将来を決めるのは難しく、未知の経験が自分の可能性を広げてくれるのです。

最高学部では、自分が「やりたいこと」に挑戦する環境と、他者のために「やらねばならないこと」に取り組む機会が用意されています。経験を通じて、新たな「やりたいこと」に出会うことも少なくありません。



私の長男は、生活経営研究実習が希望していたグループになれず本意な結果に。「嫌だけれどやらない訳にはいかない、それなら嫌なことを少なくすれば良い。」と、最も嫌だと感じていた非効率的な作業を自動化することに取り組みました。この経験が就活で高評価を得て、他者からみても価値ある経験を積めたことに気付いたそうです。また経験を通して自分の強みへの理解を深めたことによって、18歳の時には考えもしなかったコンサルタントの仕事に就き、充実した日々を送っています。

このような経験は特別なことではありません。保護者会主催イベントにゲスト参加した卒業生たちは、「最高学部に進学して良かったと感じるタイミングは人それぞれ。でも必ずそう思える瞬間がくる。」と異口同音に力強く語って

れました。経験に自信がある人は、やりたいこと以外にも積極的に挑戦することができます。最高学部の卒業生は学歴フィルターを超えて企業から高く評価されています。

自由学園最高学部は、経験を通して自己理解を深め、「自分らしい生き方」を描ける場所です。キャリア支援室は、その未来の実現を全力で支援します。



Why Are Our Graduates Chosen?

なぜ最高学部の卒業生が選ばれるのか？

自由学園最高学部は、生涯にわたって自分らしく生きる力を育み、卒業後も学生一人ひとりの人生に寄り添います。

「体験」を通して自分らしさを探求する

共生共創プログラム、生活経営実習、ゼミナール活動
学外研修、フィールドワーク、卒業研究、国際プログラム
復興支援、キャリアガイダンス、インターンシップなど

「知識」を通して自分らしさを探求する

リベラルアーツの学び
キャリアデザインⅠ・Ⅱ

「対話」を通して自分らしさを探求する

キャリア☆カフェ(学生、卒業生、保護者、教職員)
南沢会(卒業生団体)主催イベント
キャリアカウンセリング

「自分らしさ」を探求して自己理解を深める

当社を設立以来、初めて看護師資格を持たないメンバーとして採用した2人は、自由学園最高学部の卒業生です。彼らは着任当初から基本的な生活力に加え、答えのない問題に勇気を持って挑む姿勢、失敗から学び、改善していく逞しさを身につけていました。

入社3年目、2人はさらに成長し、「希望の未来は自分たちでつくっていく」ため独立し、子会社の代表者を務め次世代のロールモデルになっています。

彼らの挑戦は、地域の可能性を拓くフロントランナーの姿そのものです。自ら未来をつくる力を信じ、行動することで社会は変わる。次の世代にも、この精神を引き継ぎ、挑戦を楽しむ文化を根付かせてほしいと願っています。

わたしが最高学部の卒業生を選ぶ理由

矢田 明子 さん

【株式会社CNC代表取締役、看護師、保健師】
(CNC:コミュニティナースカンパニー)



北海道更別町で地域の人たちとの集い



VUCA時代を 生き抜く力の基盤

梶田 一摩 南沢会委員長

【株式会社神戸製鋼所 アルミ板営業部長】

—
1998年3月卒業(男子部54回生)
卒業研究テーマ:日本の経営を考える。経済グループ所属



南沢会の卒業生を前に研究発表をする学部生

「人に求めているわけではない。自ら与え続ける人になりなさい」。これは在学中に学び、今も私の信条としている言葉です。社会人となった頃、上司に「仕事は想像力とバランスだ」と言われたとき、これは自由学園で学んだことのひとつではないかと感じました。学園で培った力は、周囲が求めるものを感じ取り、組織のバランスを取りながら自己表現し、責任を遂行する総合力です。仕事では想像を超える難題や、プレッシャーを感じることもあります。課題に真摯に取り組み、対応できているのは、自由学園の人間教育に拠るところが大きいと思います。自由学園で培ったこのような力は、変化の激しいグローバル社会で生き抜く上でも強力な基盤となっています。これからも未知の課題に挑戦し続けていきたいと思っています。



人生を豊かにする 人脈と学びの宝庫

姫井 まな 南沢会委員長

【ノリタケ株式会社 食器事業部マーケティング部マネージャー】

—
1996年3月卒業(女子部74回生)(農芸グループ)
J74卒業勉強会:自由学園の建物(ライフライン調査)

私は現在、自由学園の卒業生組織「南沢会」の委員長を務め、キャリア支援活動として多方面で活躍する卒業生と共に、学生1人1人の声に耳を傾けながら、就職や進路などの相談にのっています。私自身、転勤など思わぬ環境に身を置く経験を度々しましたが、いつも身近に卒業生のあたたかい存在がありました。世代性別関係なく、大きな幹である学園と繋がっている卒業生の親密なネットワークは、間違いなく最高学部の大きな強みの一つです。また、答えのない人生において「自ら学び、自ら考えて行動する」主体性を持ったこの生き方は、まさに企業人としても社会人基礎力としても必要不可欠な、いわば人間力だと実感しています。これまで培った人脈に感謝しつつ、これからも心を耕し、学び続けたいと思います。

もっと

卒業生が社会でどのような活躍をしているか知りたい方へ



こちらのQRコードから、「いしかた探訪記」冊子をご覧ください。



学校は単に社会に人材を送り出すところであるという思いにかえて、
教育は新社会をつくるものであるという信念を打ち建ててゆきたい。

羽仁 もと子

「真の自由人」をめざして

自分らしく生きたい。

でも、「自分らしさ」って、どうしたら見えてくるんだろう。

世の中にはたくさんの「正解」があるように見えます。

けれど、本当の答えは、もっと静かで、もっと深いところにあるのかもしれない。

「私は、どう生きたいのか？」

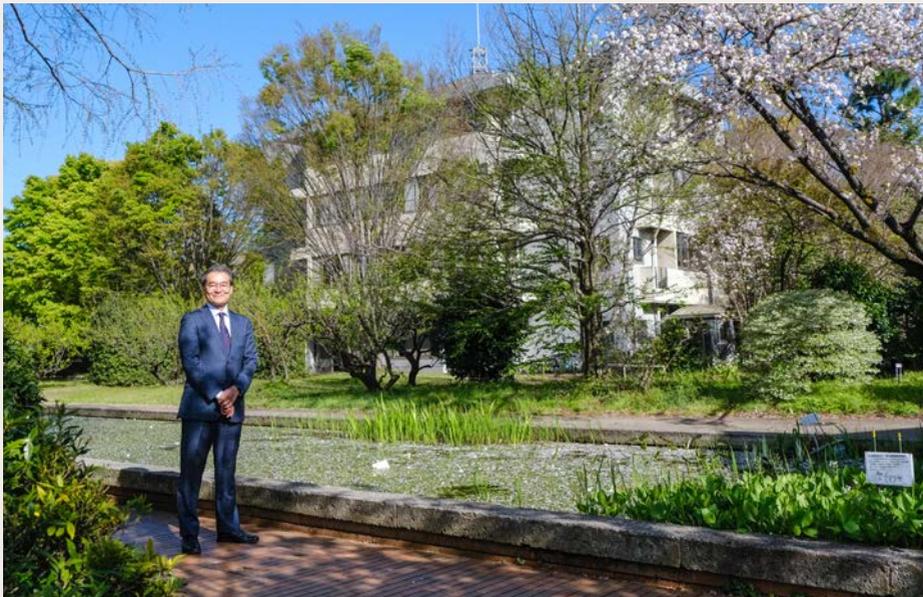
「どんな世界を、誰と、どうつくっていききたいのか？」

1949年、羽仁吉一・もと子夫妻によって設立された自由学園最高学部は、
この問いに答えるべく、「真の人間教育」を追求する場として始まりました。

「真の自由人」をめざす——創立者自身が求め続けたこの願いは、

いまでも最高学部のすみずみに生きています。

そしてこの願いは、生涯を通じた私たち一人ひとりの願いでもあります。



新緑に包まれた最高学部棟を背に立つ、高橋和也学部長

「共生共創」と「教養」を行き来する学び

自由学園最高学部では、狭い専門の枠を超えて、

自然・社会・文化・芸術などの分野に視野を広げ、

手を動かし、心を動かしながら、自分自身と世界を深く学んでいきます。

授業は少人数で、一人ひとりの言葉と思いが大切にされます。

自分自身の問いからはじまる研究。フィールドに出て人や地域と関わる実習。

そして、仲間との共同生活や礼拝を通して、

自分と他者、自分と世界との豊かな関係を築き上げていきます。

2025年度からは、新たに「共生共創プログラム」が始まります。

社会の現場で、よりよい世界の実現を目指して活動している人たちがいます。

環境の再生、共生社会の実現、よりよい地域づくり……。

そんな志ある実践者の方々とともに過ごす時間を通して、

“学ぶこと”と“生きること”が一つに結びついていく経験を重ねていきます。



共に新たな世界を創る挑戦を

私たちは、一人ひとり誰もが神の前にかげがえのない存在であることを信じます。

その唯一独自のいのちをよく生かし、自由に生きるためには、

自分自身の心の中の本当の願いに丁寧に向き合うことが大切です。

自由学園最高学部は、資格や肩書きのための場所ではありません。

一人ひとりがそれぞれの「問い」と「願い」を深め、人生の軸をつくり上げる場です。

私たちは、誰もが一人で生きていくことはできません。

自由学園最高学部には、誰かが誰かを支え、誰かが誰かに支えられ、

助け合う日々の生活があります。

仲間と学び合い、活かしあう、喜びと信頼の生活を土台に、

世界中の人々と手を取り合い、平和な世界を創り出す姿勢が養われます。



私たち人間は、自然の一部です。

地球にひととき間借りし、その恵みを受けて暮らしています。

自由学園最高学部では、自然を愛し、この美しい地球を未来につなぐ力が育まれます。

あなたと共に、人生を真に豊かにする学びに、

そして新たな世界を創る挑戦に乗り出したいと、心から願っています。

- | Address | 〒203-8521 東京都東久留米市学園町1-8-15
- | Phone | 042-422-3111 (代表) 042-422-4389 (直通)
- | Web | <https://www.jiyu.ac.jp>
- | Access | 西武池袋線ひばりが丘駅下車 徒歩13分

自由学園
最高学部



Homepage



Instagram

